

つるがわSAN-do (つるがわさんどう)

— 門前町の「まちのづくり」と「日本家屋」を参照した自由度のある拠点施設 —

門前町をつくる『参道』、命を生み出す『産道』、複数のコンピューターと外部記憶装置を結ぶネットワーク：Storage Area Networkの略称『SAN』、行動する・引き起こすの『do』。地域の方と来訪者が繋がり、鶴川の記憶と未来を結ぶような、懐かしさと新しさが共存する場所として『つるがわSAN-do』を提案します。

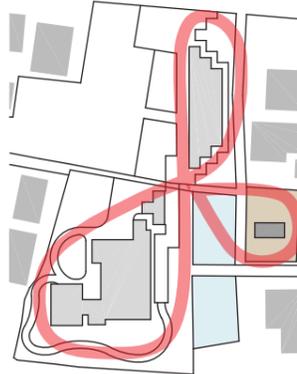
コンセプト1

近接する「櫻神社」の配置構成と門前町の「参道」を参照した配置計画。まちのづくり・歴史の継承。



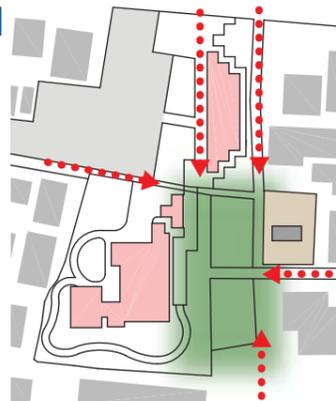
コンセプト4

「SAN-do」・遊歩道・里道による計画地全体の回遊性で3つの施設が連携し、交流や賑わいを醸成する。その道のつながりが地域へと広がっていく。



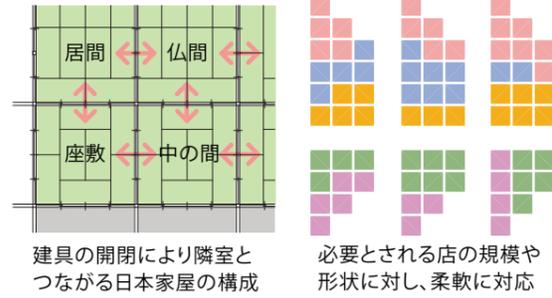
コンセプト6

日本家屋の「中庭」をヒントにした、池を取り囲むオープンな空間は、来訪者を敷地の奥へと引き込み、鶴川の風情と歴史を体感することができる。



コンセプト2 [チャレンジショップ]

日本家屋をヒントにした柱・梁と格子戸や襖に代表される「建具」による自由度のある空間。



コンセプト3

チャレンジショップの建具、旧古城医院の既存建具の再利用、クニサキハウスの建具の転写、など日本古来の「建具」による3つの施設の連携。



コンセプト5

敷地のコーナーや施設間に設けた「複数の特色ある庭」によって、利用者の想像力を刺激し、施設や周囲との連携を生み出す。



コンセプト7

交流ギャラリーは、つるがわ博物館として、既存書籍資料・民具を核に地域の歴史文化を伝承する。来訪者や若い世代が現代の鶴川にまつわる資料を加えることで、未来へ記憶を繋ぐ。

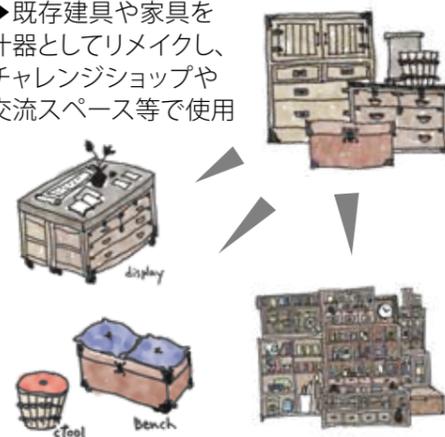


計画地全体の構成：全体をつなげ回遊性をつくる「SAN-do」を中心に、複数の庭が連携して、クニサキハウス・旧古城医院・チャレンジショップ、周辺環境とのつながりをつくる

既存備品等の利活用



▶ 既存建具や家具を什器としてリメイクし、チャレンジショップや交流スペース等で使用



▶ 日本家屋の特徴である床下スペースを土間として利用し変化のある空間をつくる



前面道路からみた全景
道路に面しておまつりひろばを設け、はじめて来た人でもわかりやすい玄関となる



クニサキハウス、旧古城医院、チャレンジショップが池を中心に向かい合う伝統的な日本家屋がもつ中庭を参照した3つが連携する施設の中心的空间



チャレンジショップと施設全体をつなげる屋根が掛かった道「SAN-do」
「SAN-do」を介して、イベントを想定した芝生の庭とショップが連携する

